

## G-1 なぜ、失敗から学べないのか?

9/5 10:00 「成長する組織」をつくるには

株式会社ティ奥斯  
代表取締役 落合 敏明



【セミナーの狙い】 問題・失敗プロジェクトが世に溢れている。しかし、その内容を冷静に分析してみると、問題・失敗の決定的な要因には実はそれほど多くのバリエーションがあるわけではない。言葉を変えるならば、同じような要因で何度も問題・失敗を繰り返しているということになる。多くの組織が、品質管理等のプロセス強化・プロジェクト事例分析・マネジメント教育等に取り組んでいる。しかし、プロセスはプロセスにすぎず、教育は教育にすぎない。ビジネスの現場でメンバーひとりひとりの現実の具体的な行動にプロセスや教育が活かされなければ、当然結果には結びつかない。当講座では、過去（失敗、成功を問わず）を教訓化し、組織・個人の能力を着実に高めるための考え方・方法論について解説する。

【セミナーコンテンツ】 ビジネス能力を高めるために組織・個人に不可欠な要素とは何か／ビジネスの成功を左右する「実践力」とは、日常の仕事の中でどう鍛えられるのか／過去の経験を徹底的に掘り下げ、教訓として着実に次に活かすための具体的手法とポイント

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに限らず、組織・チームの問題に関心を持つ全ての方

【講師略歴】 マネジャーとして数多くの大規模プロジェクトに参加。コンサルタントとしては、プロジェクトマネジメント関連、ナレッジマネジメント関連を中心に活躍している。大手メーカー、大手ITベンダーなどで数多くの実績をもち、現場そして実践を重視したコンサルティング活動で第一線に立ち続けている。(社)全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタントICMCI(マネジメントコンサルタント世界機構)認定コンサルタント 著書：「研修が教えないビジネス能力の磨き方」日刊工業新聞社 など

## H-1 海外プロジェクトのRisk Management

9/5 10:00 見積段階・遂行段階のリスク管理

日揮株式会社 第一プロジェクト本部  
本部長スタッフ 大益 康市

【セミナーの狙い】 海外プロジェクトで納期と採算を確保することは容易なことではない。最近ではプロジェクトの大型化、資機材費・人件費の高騰、人材不足、韓国・中国企業の台頭などEPC業界の環境は更に厳しさを増している。海外プロジェクトは何故難しいのか、多くの失敗例から学ぶのは「技術」より「プロジェクト運営の難しさ」であろう。「プロジェクト運営」のリスクを見積時にどう想像しトラブル予防策を練るのか、プロジェクト遂行段階でどう対処するのか、具体的な事例を参考に考えてみたい。今後海外進出を考えているIT企業の方々にも参考にして戴きたい。

【セミナーコンテンツ】  
●EPCビジネスの構造(リスクの根幹)：(ITビジネスとの比較)  
●最近のEPCビジネスの課題  
●海外プロジェクトの見積段階と遂行段階の問題と対策(リスク管理)  
●紛争への対応：顧客との紛争：納期延長、追加費用請求クレーム  
●プロジェクト運営上の典型的なトラブルから見るリスク管理

【受講をお奨めする方】 海外プロジェクトに関わるプロジェクト、建設、機材調達、営業・法務部門関係者。ならびに今後海外展開を志向するIT企業の方々。

【講師略歴】 慶應義塾大学法学部卒業日揮に入社(法務部に配属)。契約業務と海外現場駐在経験を経て海外プロジェクト部門へ異動。主に円滑なプロジェクト運営の支援とともに顧客・Subcontractorとの紛争処理交渉などを担当。業務本部プロジェクトコーディネーション部長等を経て現在第一プロジェクト本部(旧国際事業本部)本部長室にて現職。エンジニアリング振興協会のPM基礎講座の講師を担当。

## G-2 現場力のプロジェクトマネジメント

9/5 13:45 日本組織の現場力を活かしたプロジェクトマネジメントの在り方を考える

マイクロソフト株式会社 ビジネスプロダクティビティソリューション本部  
エグゼクティブアドバイザー 浦 正樹

【セミナーの狙い】 ビジネスの現場では米国型のマネジメントスタイルや価値観を鵜呑みにする日本組織の風潮が問われているが、プロジェクトマネジメントに関しても例外ではない。日本の組織には、「現場力」を原動力に脈々と受け継がれるプロジェクト運営の知恵があった。しかし、高度化するプロジェクトや厳しい事業環境に直面する中、組織的な視点が欠如しがちな従来のやり方だけでは限界がある。従来型でもダメなら、上意下達のベストプラクティスを単に真似てもダメ。「実践力」の領域で、人に着目した仕組みを考える必要がでてきた。今回は、「可視化」、「考え行動する個人」、「会話と納得」の3つをキーワードに据え、日本の組織が目指すべきプロジェクトマネジメントの在り方について考える。

【セミナーコンテンツ】 上位下達型のベストプラクティス、ベストプラクティスと現場のギャップ、プロジェクトマネジメントにおける現場力とは何か、日本型プロジェクトマネジメントのスケルトン

【受講をお奨めする方】 PMの仕組み導入を推進されている方、PMの仕組みが定着しなかった経験をお持ちの方、PMO、プロジェクトマネジャー、プロジェクトリーダー

【講師略歴】 1984年横浜国立大学工学部機械工学科卒。いすゞ自動車、大塚商会、アルテミスインターナショナル、ブライズウォーターハウスクーパーズ コンサルタント(現IBMビジネスコンサルティングサービス)を経て、2003年にマイクロソフトに入社。製造業を中心に、プロジェクトマネジメントの導入・立ち上げの経験をもつ。著書に「失敗する前に読む プロジェクトマネジメント導入法」(翔泳社)がある。

## H-2 ITプロジェクトおけるリスク管理の勘どころ

9/5 13:45 EVMを始めとして発注者の為のパフォーマンス・リスク管理を中心に

村田経営研究所  
代表 村田 正憲

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトでは“物作り”だけに徹しては不十分だと知ってはいても、プロジェクト・パフォーマンス、バリュー・プロポジション(Value Proposition)の改善方策が分からない、そして手が回らないのが実情だろう。またEVM(出来高管理)を導入しても、発祥の地の欧米式契約形態には即していても国内では勝手が異なることを踏まえずに表面的な予実分析に終始する傾向を否めず、EVM管理タスク工数のバリュー・プロポジションすら疑問視せざるを得ない。そこで発注者側PMやPMO責任者がEVM関連報告のどこに着目してパフォーマンス・リスク管理を実践すべきかを、発注者及びベンダー(受注者)の双方の立場から解説しつつ、各々が最適化する勘どころを浮き彫りにする。

【セミナーコンテンツ】 ITプロジェクトにおけるリスク・マネジメント、そしてパフォーマンス・リスク管理とは? EVMによるプロジェクトQCDリスク・マネジメントのポイントとは? 発注者側PM、PMO責任者、及びCIOが果たすべき責任と役割とは?

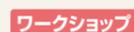
【受講をお奨めする方】 プロジェクト・マネジャー、特にユーザー企業のPMO責任者、CIO、企業経営者

【講師略歴】 (株)村田経営研究所代表。IT関連を中心とした15年以上のマネジメント・コンサルティング経験を有し、代表な実績例としては海外エンジニアリング部門におけるPMO要員、グローバル企業における米国及びインドを含む国際的Y2K対応プログラム統括責任者兼PMOマネージャー、公共機関における業務・システム最適化計画策定及びPMO支援、等。主な著書には「入門 上級システムアドミニストレータ」(リックテレコム社、共著)、等。PMAJ会員、国際CIO学会会員、等。

## L 「ふりかえり」によるITプロジェクトカイゼンワークショップ

9/5 10:00 ふりかえりと見える化の関連

株式会社 永和システムマネジメント コンサルティングセンター  
センター長 天野 勝



【セミナーの狙い】 変化の激しいビジネスを支えるITシステムを構築するには、プロジェクトはその変化に振り回されるのではなく、変化に追従する必要がある。プロジェクトが環境に適合して自ら変化する「カイゼン」や、そのカイゼンを推し進めるための「現場力向上」が求められている。本ワークショップでは、ITプロジェクトにカイゼンを導入するための「ふりかえり」という考え方を紹介し、具体的な手法としての「KPT」を実習を通して、体験から学んでいただくものである。

【セミナーコンテンツ】 ふりかえりの手順、KPT、カイゼンの原則、解決指向型と原因追求型、ふりかえりを促進するツール、ふりかえりと見える化

【受講をお奨めする方】 ITプロジェクトの現場にカイゼンを導入しようと考えているプロジェクトマネジャー、およびチームリーダー。「現場力向上」に関心のある方。昨年受講された方も再度受講しやすいうように、新しいコンテンツを追加し、ふりかえりと見える化の関連についても触れます。

【講師略歴】 株式会社永和システムマネジメントにおいて、オブジェクト指向をはじめとするソフトウェア開発技術および、アジャイルソフトウェア開発プロセスの導入に関するコンサルタントとして活躍。オブジェクト倶楽部 事務局長、日本XPユーザグループ 企画スタッフ、アジャイルプロセス協議会 運営委員などを務める。著書：「eXtreme Programmingテスト技法 - xUnitではじめる実践XPプログラミング」、「リール開発の本質」、「アジャイルソフトウェア開発スクラム」、その他、雑誌への寄稿多数。

## K コンフリクト・マネジメント

9/5 10:00 多様化する職場での協調的問題解決

株式会社オイコス  
メンター 鈴木 有香



【セミナーの狙い】 多様性を前提とする雇用環境において、職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎を紹介する。また、Win-Winという概念を体感し、協調的問題解決の視点からの交渉、問題分析をケース・スタディーを通して学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 コンフリクト・マネジメントストラテジーとその選択、協調的問題解決モデルの紹介、ケース・スタディー、一部体験学習やグループ・ディスカッションを含む。

【受講をお奨めする方】 基礎的なマネジメント・スキル、職場での問題解決能力にご関心のある方々。

注：午前の講座内容は、PMシンポジウム2007での内容と重複します。

【講師略歴】 早稲田大学紛争処理研究所研究員、株式会社オイコス メンター。異文化教育コンサルタント。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ(米国)にて修士号、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。コンフリクトマネジメント、多様性研修、異文化研修、リーダーシップ研修を一部上場企業(外資系、日系)を中心に担当。著書に「コンフリクト・マネジメント入門」、文部省検定教科書「On Air」(共著)など。

## M 体験して学ぶプロジェクトファシリテーション

9/5 10:00 ダイバーシティとコミュニケーション

松本屋 松本 潤二



【セミナーの狙い】 プロジェクト運営に限らずどのような場合においても、対人コミュニケーション能力の向上は直接的ではないかもしれないが、確実に多くの問題を解決へと導く。特に仕事上のコミュニケーションは必要最小限とされることが多く、それにより伝達の漏れや齟齬が多く発生する。本セミナーではコミュニケーションの質を向上させることを目的とし、認知や心理の理論的側面に併せ、実際に自らの体で演習を行い相互補完することでより深い学習をする。

【セミナーコンテンツ】 コミュニケーションにおけるヒトの認知、行動、学習などの過程を元に、講師による講義とグループや全体でのディスカッション、少人数による対話練習と観察などを行う。特にディスカッションや対話練習では仮定の題材によるロールプレーではなく、参加者の実体験による内容を用いて進める。

【受講をお奨めする方】 プロジェクトにかかわる人とのコミュニケーションを改善し深めたい方。また、プロジェクトファシリテーションに興味がある方。受講内容を自分自身で実践するつもりがない方はご遠慮ください。

【講師略歴】 日本コーチ協会東京チャプター代表、独立行政法人国立環境研究所CIO補佐補助、松本屋(個人事業主)。主にITシステム開発の現場で、アジャイルなプロジェクト運営とチーム作りを通してプロジェクトファシリテーションを実践。プロジェクトチームへのアジャイルプロセスの導入支援、プロジェクトファシリテータの育成、チームやマネージャーへのコーチングおよびバーソナルコーチ。アジャイルプロセスと、コミュニケーション改善のための研修講師やワークショップのリード。

